

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 京都精華大学

(2) 大学名 京都精華大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒606-8588
京都府京都市左京区岩倉木野町137

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イシダ リョウ) 石田 涼 (平成29年12月)		
学長	(ウスビ サコ) ウスビ・サコ (平成30年4月)	(サワダ マサト) 澤田 昌人 (令和4年4月)	任期満了による変更 令和4年4月(4)
学部長	(イナガ シゲミ) 稲賀 繁美 (令和3年4月)	(ヤマダ ソウヘイ) 山田 創平 (令和4年4月)	任期途中の担当辞退による変更 令和4年4月(4)
学科長等	(コレサワ ノリミツ) 是澤 範三 (令和3年4月)	(イワモト シンイチ) 岩本 真一 (令和4年4月)	学部長交代による執行部変更 令和4年4月(4)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)

令和4年度に報告する内容 → (4)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
国際文化学部 人文学科 学士（文化）	社会学・社会福祉学関係	4年	160人	年次 該当なし	640人	新規入学者を募集	人文学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	/		/		/		160人	一人	160人	一人	0.85 倍	一倍	
志願者数	/		/		/		386 (-) [61]	- (-) [-]	298 (-) [26]	- (-) [-]			
受験者数	/		/		/		372 (-) [57]	- (-) [-]	277 (-) [22]	- (-) [-]			
合格者数	/		/		/		313 (-) [33]	- (-) [-]	240 (-) [15]	- (-) [-]			
B 入学者数	/		/		/		157 (-) [20]	- (-) [-]	118 (-) [11]	- (-) [-]			
入学定員超過率 B/A	/		/		/		0.98		0.73				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次							149 [16] (5)	1 [1] (-)	123 [12] (-)	- [-] (-)	・令和3年度在学者には令和3年10月1日再入学者1名（元文学部留学生）を含む。 ・令和3年度在学者には令和4年4月1日転出者1名（本学メディア表現学部2年次へ転入）を含む。この転出は退学扱いにならない。
2年次									143 [15] (-)	1 [1] (-)	
3年次											
4年次											
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	150 [17] (5)		267 [28] (-)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	159人	9人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	9人	4人	精神面の不調(1人)、修学意欲の低下(2人)、就職・就職活動(1人)、除籍(1人) [精神面の不調(1人)、修学意欲の低下(1人)、進路変更(転学など)(2人)]
令和4年度	267人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	0人	0人	
			令和4年度	0人	0人	
合計		9人		9人	4人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{9}{159} = \boxed{5.66} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{267} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	京都精華大学				学生募集停止学科数	4	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考		
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
国際文化学部											
人文学科	4	160	-		学士(文化)	-	0.73		令和3	京都府京都市左京区岩倉木野町137	
グローバルスタディーズ学科	4	90	-		学士(文化)	-	0.45		令和3	同上	
メディア表現学部											
メディア表現学科	4	168	-		学士(メディア表現)	-	1.10		令和3	同上	
芸術学部	4	112	-	448							
造形学科	4	112	-	448	学士(芸術)	0.90	1.03		平成29	同上	
芸術学部	4	-	-	-							
素材表現学科	4	-	-	-	学士(芸術)	-	-		平成18	同上	平成29年学生募集停止
メディア造形学科	4	-	-	-	学士(芸術)	-	-		平成18	同上	平成29年学生募集停止
デザイン学部	4	256	-	1024							
イラスト学科	4	64	-	256	学士(芸術)	1.02	1.01		平成25	同上	
ビジュアルデザイン学科	4	64	-	256	学士(芸術)	1.10	1.04		平成18	同上	
プロダクトデザイン学科	4	72	-	288	学士(芸術)	0.95	0.98		平成18	同上	
建築学科	4	56	-	224	学士(芸術)	0.96	0.92		平成18	同上	
マンガ学部	4	312	-	1428							
マンガ学科	4	232	-	928	学士(芸術)	1.16	1.03		平成18	同上	
アニメーション学科	4	80	-	320	学士(芸術)	0.93	0.93		平成18	同上	
ポピュラーカルチャー学部	4	-	-	-							
ポピュラーカルチャー学科	4	-	-	-	学士(芸術)	-	-		平成25	同上	令和3年学生募集停止
人文学部	4	-	-	-							
総合人文学科	4	-	-	-	学士(人文)	-	-		平成21	同上	令和3年学生募集停止
大学全体	-	1098	-	4392	-	-	-		-	-	

大学の名称	京都精華大学大学院					学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	
人文学研究科		10	-	20						
人文学専攻修士課程	2	10	-	20	修士(人文学)	0.30	0.50		平成5	京都府京都市左京区岩倉木野町137
芸術研究科		25	-	55						
芸術専攻博士前期課程	2	20	-	40	修士(芸術)	0.82	0.90		平成12	同上
芸術専攻博士後期課程	3	5	-	15	博士(芸術)	0.53	0.40		平成15	同上
デザイン研究科		15	-	30						
デザイン専攻修士課程	2	10	-	20	修士(芸術)	0.75	0.70		平成22	同上
建築専攻修士課程	2	5	-	10	修士(芸術)	1.00	1.40		平成22	同上
マンガ研究科		24	-	52						
マンガ専攻博士前期課程	2	20	-	40	修士(芸術)	0.95	0.90		平成22	同上
マンガ専攻博士後期課程	3	4	-	12	博士(芸術)	0.25	0.25		平成24	同上
大学院全体	-	74	-	157	-	-	-	-	-	-

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず、履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和元年)	「アフリカ・アジア」と「京都」の関連性を新たな学部設置の動機として強調する理由について、その学術的根拠について学生が理解できるよう丁寧に説明することが望ましい。(助言事項)	改善事項 アジア・アフリカの重要性や将来性、それらの国々からの出身者との交流が次世代の世界をつくるために大切なことが、カリキュラムをはじめ大学のさまざまな教育運営の現場において肌で感じられるものとなっている。 本学部の必修科目においては、問題意識を目覚めさせる総合的な講義と少人数の演習とを組み合わせている。その中で、多国籍の学生の交流を促進するとともに、京都の地の利をいかすことにより、日本理解を深化させていく。 また、それを国外でも通用する知識や実践的能力に結びつける教育を進めることで、国内外での実地演習・フィールドワークに立脚した成果が、卒業要件となる設計となっている。 各科目における授業内での教授はもちろんのこと、カリキュラム全体の制度設計により、本学部の意図・目的について個々の学生に的確に説明されるとともに、確実に受肉されることが期待される。	履行中 前期・後期の開始前に実施する履修ガイダンスにおいては、その都度、学部のカリキュラムマップや科目構成の説明をし、その中で「アフリカ・アジア」と「京都」の関係性、学部内での位置付けを説明する。 また、第1・2クォーター開講の1年次必修科目「国際文化概論1」「国際文化概論2」では、リレー講義形式で、アジア・アフリカの専門家や日本の文学・歴史・社会・文化の専門家からの講義を行い、授業担当教員の専門分野の視点から「アフリカ・アジア」および「京都」の文化や歴史的背景等について解説し、知識を深める。 また、第3・4クォーター開講の1年次必修科目「国際文化史1」「国際文化史2」では、国際社会間の多様な文化交流史等についての学びを通し、「アジア」や「アフリカ」の文化と江戸時代まで日本における文化の中心地であった「京都」の関連性について理解を深めるとともに多角的な視点で分析を行う。 2年次では、「応用演習1～4」および各専攻の必修講義科目を通じて、授業担当教員の専門分野の視点から「アフリカ・アジア」および「京都」の文化や歴史的背景等についてさらに知識を深め、演習発表を通じて、各自の理解と興味を深める。
設置計画履行状況 調査結果 (令和3年)	教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。	指摘事項 (改善) グローバルスタディーズ学科カリキュラムの柱となる1年次必修科目「海外短期フィールドワーク」および3年次必修科目「海外長期フィールドワーク」における各プログラムが学生にとって魅力あるものとなるよう、派遣先の選定およびプログラム開発に注力してきた。2023年度開講予定の3年次科目を含め、プログラムの詳細を記した冊子を作成し、授業内での指導に活用している。また、学部案内冊子の作成や高校の訪問、体験授業の開催等、広報活動を強化している。さらに、同年代の学生の目線で、学部・学科やカリキュラムの魅力を発信すべく、学部公認学生団体による広報紙の作成やWeb上での学部・学科の学びについての紹介等も行っている。	履行中 令和4年度については、1年次必修科目である「海外短期フィールドワーク」内での海外派遣を実施する予定である。事前学習や派遣先での調査・生活、実施後の成果報告等を発信し、広報活動へとつなげる予定である。また、毎月1回開催される学部運営会議および隔週で開催される学科会議等において、よりよいカリキュラムとなるよう各科目の授業内容について検討を進める。

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。